



公益社団法人

日本語教育学会

2019年度日本語教育学会秋季大会

2019年11月23日(土)・11月24日(日)
島根県立産業交流会館(くにびきメッセ)
(島根県松江市)
後援:松江市

◆開会式 23日(土) 13時 3階 国際会議場◆

開催都市挨拶:松浦正敬氏(松江市市長)

会長挨拶:石井恵理子(公益社団法人日本語教育学会会長)

司会:横山紀子(公益社団法人日本語教育学会大会委員長)

本年6月に成立した「日本語教育の推進に関する法律」は、日本語を必要とする全ての人々が学ぶ機会を得られるよう、国や自治体が責任をもって制度整備を行うことを明記しています。それは生活の利便性が増すことに留まらず、日本社会で生きる全ての人々の権利が守られ、十分な教育を受けて自分の力を伸ばし、希望を持って生きていくことを支えることにつながるからです。

地域社会に生きる人々は、社会を支える構成員として関わり合いながら生きています。文化の違いや相互の理解不足などによって起こる摩擦を双方向で解決する努力を続けることによって、地域社会が創られていくのだと思います。日本語だけでなく様々な言語によっても課題解決のための試行錯誤が各所で始まっています。「人をつなぎ、社会をつくる」こととは、どのようなもののでしょうか。2日間を通して、皆様のお考えがそれぞれに深まることを願います。

公益社団法人日本語教育学会会長 石井恵理子

目 次

開催のご挨拶	1
開催概要／目次	2
大会日程	3
一般公開プログラム	4
発表一覧：パネルセッション	5
発表一覧：口頭発表	6
発表一覧：ポスター発表	10
同時開催イベント	13
会場案内：会場への交通案内	21
会場案内：会場配置図	22

◆大会参加にあたり、手話通訳者・託児等の費用助成を希望する場合は、規程及び要領等をご確認いただきまして、所定の期日までに申請をお願いいたします。その他、なんらかの配慮を要する場合は、10月10日までに下記大会事務局までご相談ください。座席の確保など可能な範囲で対応いたします。また、期日までにご相談がない場合は対応できませんのでご了承ください。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費：【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】
 - 会員 3,500 円
 - 会員（学生証をお持ちの方）2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】一律 5,000 円
- ◆懇親会費：【事前登録（先着 80 名）※お支払い時に手数料がかかります】
一律 3,500 円
- ◆事前登録期間：2019 年 10 月 16 日（水）～ 11 月 15 日（金）
- ◆問合せ先：03-3262-4291/E-mail:taikai-office@nkg.or.jp（前日まで）
090-1999-3315（当日のみ）

今大会では、一般財団法人くにびきメッセへの開催支援補助金の申請にあたり、参加者名等の報告が必要となります。ご登録いただいた個人情報は、本申請における実績報告のためのみに使用させていただきます。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

* 無料でご参加いただけます。

シンポジウム

地域を支える多文化人材のキャリア

11月23日(土) 10:00 ~ 12:00 1階 多目的ホール

日本政府は、労働力確保のために外国人材の受け入れを開始しました。受入れ地域・企業には、生活とキャリアに関するガイダンスに加え、日本語指導等の支援が求められます。

本シンポジウムでは、島根県における企業・自治体の外国人の受入れと生活・日本語学習支援の経験と取り組みの事例をもとに、地方都市における外国人材の受入れに伴う課題とその解決方法について検討します。留学生や技能実習生、定住者、そしてその家族等様々な立場の外国人住民が、その社会の次世代を担う存在として、地域の経済的・文化的活動に参画し、地域の未来創生に力を発揮できる仕組みをいかにつくるかという、地域づくりの視点から議論をしていきたいと思えます。

パネリスト：

青晴海氏

(島根大学国際交流センター 教授)

小菅扶温氏

(株式会社ヒューマンサポートジャパン 代表取締役社長)

村谷エレナ氏

(フジアルテ株式会社、

NPO エスペランサ「いずも多文化こどもプロジェクト」スタッフ)

岩崎美保子氏

(公益財団法人しまね国際センター スタッフ

ポルトガル語相談)

進 行：

仙田武 (公益財団法人しまね国際センター 多文化共生推進課長)

土井佳彦 (公益社団法人日本語教育学会社会啓発委員会)

本プログラムは、JSPS 科研費 JP19HP0001 の助成を受けたものです。

パネルセッション

第1部 [14:00 ~ 15:30 (90分)]

第1会場	第2会場
3階 国際会議場 司会：宇佐美洋 (東京大学)	1階 多目的ホール 司会：浜田麻里 (京都教育大学)
① 対話システム構築と談話研究・ 日本語教育の接点 宇佐美まゆみ (国立国語研究所) 東中竜一郎 (NTT) 杉山弘晃 (同) 角森唯子 (NTT ドコモ) 大塚容子 (岐阜聖徳学園大学)	② 多言語環境で育つ子どもの発達 障害と日本語教育 川崎直子 (愛知産業大学短期大学) 山本順大 (小牧発達相談研究所) 藤川純子 (三重大学教職大学院生) 伊東浄江 (トルシーダ)

第2部 [15:45 ~ 17:15 (90分)]

第1会場	第2会場
3階 国際会議場 司会：服部明子 (三重大学)	1階 多目的ホール 司会：市嶋典子 (秋田大学)
③ 専門日本語教育としての介護の 日本語の広がり—外国人介護従事 者の育成から学習支援者の養成まで— 三橋麻子 (明海大学) 辻和子 (ヒューマンアカデミー日本語 学校東京校) 佐藤治 (ライフケア医療介護事業協同 組合) 丸山真貴子 (大原学園)	④ 日本語コーパスの授業活用—研 究以外の幅広い活用を目指して— 清水由貴子 (聖心女子大学) 木田真理 (国際交流基金) 清水まさ子 (同) 内海陽子 (海外産業人材育成協会) 劉志偉 (埼玉大学)

口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

	第 1 会場	第 2 会場
	3 階 国際会議場 司会：野田尚史 (国立国語研究所)	1 階 多目的ホール 司会：松岡洋子 (岩手大学)
9:30 ~ 10:00	① ベトナムにおける戦時期日本 プロパガンダ誌『Tan A (新 アジア)』のなかの日本語教 育—教師の被害性と加害性に注 目して— 有田佳代子 (新潟大学)	⑤ 中国の大学におけるネイティ ブ・ノンネイティブ日本語教 師への相互意識調査—アン ケート結果が示唆する現状と課 題— 樫佳世 (三重大学) 朴慧淑 (大連外国語大学)
10:10 ~ 10:40	② 言語教育サービスの商品化に 対する教師の意識—香港とベ トナムの教師の比較から— 瀬尾匡輝 (茨城大学)	⑥ 接触場面における日本語母語 話者の「言い直し」について —接触経験と学習者の日本語能 力が及ぼす影響に着目して— 雷雲恵 (文教大学大学院生)
10:50 ~ 11:20	③ 中国語、ベトナム語を母語 とする日本語学習者が講義 を理解する過程—ノートテイ キングとフォローアップインタ ビューの分析から— 田中啓行 (中央学院大学)	⑦ ナラティブによる評価の可能 性—「社会とつながる日本語教 育実践」はどのように評価でき るか— 三代純平 (武蔵野美術大学) 南浦涼介 (東京学芸大学) 中川祐治 (福島大学) 佐藤慎司 (プリンストン大学) 石井英真 (京都大学)
11:30 ~ 12:00	④ 口頭能力評価と言語的特徴 の関連—「JOPT コーパス」の分 析に基づいて— 李在鎬 (早稲田大学)・嶋田和子 (ア クラス日本語教育研究所)・伊東祐 郎 (国際教養大学)・鎌田修 (南山 大学)・坂本正 (名古屋外国語大学) 由井紀久子 (京都外国語大学)・赤 木彌生 (東亜大学)・六川雅彦 (南 山大学)	⑧ 日本語学校における経営構造 の問題—なぜ日本語学校は多国 籍化したのか— 岡田茉弓 (大阪大学大学院生)

口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

第3会場

5階 501会議室
司会：木下直子
(早稲田大学)

- | | |
|---------------|---|
| 9:30 ~ 10:00 | <p>⑨
中国人学習者における感動詞の習得状況に関する考察</p> <p>姚瑶 (早稲田大学大学院生)</p> |
| 10:10 ~ 10:40 | <p>⑩
日本語学習者の作文における順接型の接続表現の習得</p> <p>董芸 (国立国語研究所共同研究員)</p> |
| 10:50 ~ 11:20 | <p>⑪
初級日本語教科書における接続表現の取り扱い方と談話の展開方法—中国人結婚移住女性の談話との比較から—</p> <p>王瑜青 (洛陽師範大学)</p> |
| 11:30 ~ 12:00 | <p>⑫
自・他動詞導入法の新提案とその実践報告</p> <p>徳弘康代 (名古屋大学)
初鹿野阿れ (同)</p> |

口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 16:00 (各 30 分)]

	第 1 会場	第 2 会場
	3 階 国際会議場 司会：小野正樹 (筑波大学)	1 階 多目的ホール 司会：水野晴美 (国際日本語普及協会)
13:30 ~ 14:00	⑬ テレビゲーム『ドラゴンクエスト3』の語彙調査—日本語教育への応用可能性に向けて— 麻子軒 (大阪大学)	⑰ 音声日本語社会が生み出すダブルバインドに関する試論—見えないマイノリティによるコラボラティブ・オートエスノグラフィーを通して— 中井好男 (同志社大学) 丸田健太郎 (広島大学大学院生)
14:10 ~ 14:40	⑭ BCCWJにおける「トイイ」「バイイ」「タライイ」の使用実態 大西まき (神戸女学院大学大学院生)	⑱ 概念メタファー理論に基づいた教科学習支援—社会科3・4年生教科書の分析を通して— 鷺見幸美 (名古屋大学) 松浦光 (横浜国立大学)
14:50 ~ 15:20	⑮ 初任日本語教師が抱く授業中の教育不安についての一考察—心理グラフを用いた授業の振り返りから— 布施悠子 (一橋大学大学院生)	⑲ 中学校数学教科書に用いられている動詞の特徴—どのような難しさがあるのか— 宮部真由美 (国立国語研究所)
15:30 ~ 16:00	⑯ 日本語自律学習支援システムにおける学習アドバイザーの学びと成長—ピア・サポートを行う大学院生の経験とキャリアの観点から— 寅丸真澄 (早稲田大学) 吉田好美 (同)	⑳ 就学時ガイダンス・プレスクールによる多文化背景家庭の意識変容 窪津宏美 (東京学芸大学大学院連合学校 (横浜国立大学所属) 大学院生)

口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 16:00 (各 30 分)]

	第3会場	第4会場
	5階 501 会議室 司会：中俣尚己 (京都教育大学)	6階 601 会議室 司会：嶋田和子 (アクラス日本語教育研究所)
13:30 ~ 14:00	<p>⑳</p> <p>発表が予定されていた当該発表は、発表者の都合により中止となりました。</p>	<p>㉕</p> <p>ベトナム日系製造業における日本語面接の談話分析</p> <p>服部明子 (三重大学)</p>
14:10 ~ 14:40	<p>㉑</p> <p>モンゴル語・インドネシア語母語話者は痛みのオノマトペをどのように捉えるのか—介護のオノマトペの調査から—</p> <p>神村初美 (国立国語研究所)</p>	<p>㉖</p> <p>職場と世代が同じタイ人日本語教師2名のピリーフに関する縦断研究—背景や経験の異なりとピリーフの形成に着目して—</p> <p>坪根由香里 (大阪観光大学) 小澤伊久美 (国際基督教大学) 八田直美 (国際交流基金) 内田陽子 (同)</p>
14:50 ~ 15:20	<p>㉒</p> <p>外国人看護師の職場における接触場面の研究—関東圏, 2施設へのインタビュー調査から見る現状と課題—</p> <p>田村瑠美 (東海大学大学院生)</p>	<p>㉗</p> <p>定住外国人の働く環境を作る「指示場面の Can-do statements」の開発—「職場」という文脈における指示連鎖の相互行為分析をもとに—</p> <p>大平幸 (山梨学院大学) 佐野真弓 (関西学院大学) 森本郁代 (同)</p>
15:30 ~ 16:00	<p>㉓</p> <p>3Dバーチャルワールド教材作成を通して学ぶ日本語コースデザイン</p> <p>菊池正人 (ジョージア工科大学)</p>	

ポスター発表 第1部 [10:50 ~ 12:20 (90分)]

第1会場

3階 303-304 商談室

①

日本語学校に通う「就労せざるを得ない学習者」を内発的に動機づける教室活動—ベトナム人学習者の事例に基づいて—

真田聡美 (龍谷大学)

②

学生の深い思考を促す教師の支援—メタ認知を活用した読解教材を通して—

藤田裕子 (桜美林大学)
福島智子 (同)・白頭宏美 (同)
鈴木理子 (同)・伊古田絵里 (同)

③

多文化共修授業における「親しさのコミュニケーション」の促進要素

大島弥生 (東京海洋大学)

④

改訂版タキソミーから見たJFスタンダードの特徴

保坂敏子 (日本大学)
藤本かおる (武蔵野大学)

⑤

日本語多読活動支援の動機・気づき・課題

高橋亘 (神田外語大学)

第2会場

3階 305-306 商談室

⑥

農業における日本語使用の実態と課題—ベトナム人技能実習生に着目して—

重田美咲 (下関市立大学)

⑦

中国人社員と日本人社員の話し合いにおける会話参加者の配慮・調整—フォローアップ・インタビューから探る外国人材育成のヒント—

蒙韜 (国立国語研究所)
中井陽子 (東京外国語大学)
寅丸真澄 (早稲田大学)

⑧

元留学生社員の日本企業就業継続の要因—インタビュー調査より—

堀井恵子 (武蔵野大学)
高橋桂子 (国際日本語普及協会)

⑨

外国人材のための「システム仕様書」の特徴把握の試み—jReadabilityと旧日本語能力試験出題基準を用いて—

大崎健一 (早稲田大学大学院生)

⑩

看護の実習記録の表現の分析—留学生への支援のために—

山元一晃 (国際医療福祉大学)
加藤林太郎 (同)

ポスター発表 第2部 [12:40 ~ 14:10 (90分)]

第1会場

3階 303-304 商談室

⑪

外国につながるのある生徒を対象にした教科学習につなぐための日本語教材の開発ー「教科につなぐ」とは何かー

志村ゆかり (関西学院大学)・ピアルケ千咲 (東京経済大学)・志賀玲子 (同)・樋口万喜子 (横浜国立大学)・武一美 (早稲田大学)・頼田敦子 (横浜市教育委員会)・永田晶子 (イーストウエスト日本語学校)

⑫

児童の相互作用に着目した教授法による「読み」の力の向上ー学習理解に課題を抱える小学6年生外国人児童2名を対象とした質的研究ー

坂口佳代 (同志社国際中学校・高等学校)

⑬

国際共修による学習者主体のピア・ラーニング授業の構築ーグローバルな視点に基づいた地域文化理解教育の取組みー

大塚薫 (高知大学)

⑭

ビデオ教材「言語景観で学ぶ日本語」の制作と公開

磯野英治 (名古屋商科大学)
西郡仁朗 (首都大学東京)

⑮

理工系留学生のための語彙・用例検索ツール『レインボー』完成版の公開ー7分野への拡充および分野間共通の自立語の追加採録ー

菅谷有子 (東京大学)・伊藤夏実 (東京農工大学)・遠藤直子 (広島工業大学)・岡葉子 (東京大学)・白鳥智美 (横浜国立大学)・成永淑 (無所属)・単娜 (シンガポール国立大学)・中村亜美 (東京大学)・古市由美子 (同)・森幸穂 (青山学院大学)

第2会場

3階 305-306 商談室

⑯

回顧的口頭報告による聴解テスト項目の検証

澁川晶 (国際基督教大学)
谷部弘子 (東京学芸大学)
島田めぐみ (日本大学)
保坂敏子 (同)
孫媛 (国立情報学研究所)

⑰

簡易型日本語会話能力評価テストの開発ー日本語会話能力テスト (ACTFL-OPI) との比較ー

立部文崇 (徳山大学)
羽渕由子 (同)

⑱

「良い」意見文と「ふつう」の意見文を分ける要因は何かーテキストの論理性の質的分析を通してー

伊集院郁子 (東京外国語大学)
小森和子 (明治大学)

⑲

第二言語の文章聴解における視空間情報の処理と視空間ワーキングメモリー容量の関係

林韻 (広島大学大学院生)

⑳

非漢字圏学習者の漢字字形認知に関わる漢字の構造と構成要素ー非漢字圏初級学習者に対する初見漢字の再認実験からー

早川杏子 (一橋大学)
本多由美子 (一橋大学大学院生)
庵功雄 (一橋大学)

ポスター発表 第3部 [14:30 ~ 16:00 (90分)]

第1会場

3階 303-304 商談室

⑲

中国人上級学習者における日本語文のリピーティング遂行時の処理プロセス—作動記憶容量とリピーティングの開始時点を操作した実験的検討—

毛炫琇 (広島大学)

⑳

日本語語彙カードゲームの開発と実践

呂建輝 (環太平洋大学)
安原凜 (同)

㉓

継承日本語教師の語りにもみる協働の意味—教師の理想自己に注目して—

瀬尾悠希子 (東京大学)

㉔

日本語教師研修の内容を構築するための論点—移民的背景を持つ学習者を対象として—

足立祐子 (新潟大学)・松岡洋子 (岩手大学)・富谷玲子 (神奈川大学)・今村和宏 (一橋大学)・宇佐美洋 (東京大学)・林さと子 (元津田塾大学)・安場淳 (中国帰国者支援・交流センター)

㉕

外国人集住地域のコミュニティ・スクール形成において地域日本語教室が果たす役割—小中学校保護者向け日本語教室の実践を通して見えてきたこと—

鈴木崇夫 (名古屋大学)

第2会場

3階 305-306 商談室

㉖

雑談における否定的自己評価発話

初鹿野阿れ (名古屋大学)
岩田夏穂 (東京大学)

㉗

日本語非母語話者同士の接触場面における言語調整能力

名塚公輔 (首都大学東京大学院生)

㉘

「BTSJ 日本語自然会話コーパス 2018年版」における母語話者と学習者の語彙的比較

山崎誠 (国立国語研究所)

㉙

カンボジア人日本語学習者における日本語の「キャ」行と「シャ」行の知覚について

劉永亮 (首都大学東京)

㉚

複言語話者の加齢による第二言語の摩滅に関する縦断的研究

野山広 (国立国語研究所)

賛助会員出展ブース

〔11月23日（土）12:00～17:00, 24日（日）8:45～15:00〕

会場：3階 国際会議場ホワイエ

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助会員団体

本会には賛助会員という会員種別があり、全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、50 団体が入会しています。(2019 年 8 月現在)

賛助会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材のラインアップ展示等を行います。最新の書籍等を手にとって見られる絶好の機会かと思えます。

また、賛助会員と大会参加者との交流、参加者間のネットワーク作りの促進、日本語教育及び関連領域の情報提供、情報交流、広報等の場としてもお役に立てください。

ブースは土日を通して設置していますので、会期中は何度でも、どうぞお気軽に足をお運びください。

わかば・コンシェルジュ

〔11月23日（土）12:00～17:00, 24日（日）8:45～14:00〕

会場：1階 多目的ホール前

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

大会に参加してみて、わからないことや聞いてみたいことがありましたら、「わかば・コンシェルジュ」にお越しください。「どこでどんな発表をしていますか」「〇〇に興味があるんですが、どの発表を聞きに行ったらいいでしょうか。おすすめのコースを教えてください」など、大会プログラムに関する素朴な疑問や質問にお答えいたします。「わかばさんいらっしゃい」と連動しており、「わかばさんいらっしゃい」のチェックリストをコンプリートされた方に記念品を進呈いたします。大会へのご参加の記念にパネルを使った記念撮影のお手伝いもいたします。

また、他分野がご専門でこれから初めて日本語教育に関わるという方からのご質問やご相談にも可能な限り対応いたします。

2日目（11月24日）は、「ぶらさ da わかば」の申し込み受付も行います。黄色いはつぴを着たスタッフがお待ちしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

同時開催イベント

わかばさんいらっしやい

[11月23日(土) 12:10 ~ 12:55]

会場：4階 401 会議室

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。

わかばさんが研究大会に参加するときは、「どんな人が参加してるんだろう?」「一人で大丈夫かな?」「どこへ行ったらいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。学会のセンパイたちもみんなそんな経験をしてきました。そんなわかばさんたちのために、「わかばさんいらっしやい」では、大会のしくみや聞きに行く発表の選び方、その他いろいろ、研究大会の楽しみ方をわかりやすくご説明します。もちろん、「こんな基本的なこと、今さら聞いてもいいかな…」という隠れわかばさんも大歓迎ですよ。

「わかばさんいらっしやい」は食べ物・飲み物持参OK! ランチを取りながらネットワークも作りましょう。きつともっと大会が楽しくなるはずです。

ぶらさ da わかば

[11月24日(日) 12:10 ~ 13:20]

会場：4階 401 会議室

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

この学会に集うだけもが「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持てれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。とは言え、自分からセンパイに話しかけたり、さらには、一対一で対話をする機会を持ったりすることは、なかなかむずかしいことではないでしょうか。

そんな「わかば」な人のための企画が、「ぶらさ da わかば」です。皆さんの少し先を歩いているセンパイと、一対一で気楽に話してみませんか。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、センパイの経験談を聞いたり、自由な空間です。当日の午前9時から大会受付に併設する「わかば・コンシェルジュ」で申込を受け付けます。先着順ではなく、9時に大会受付に集まった方で抽選を行い、優先順位順に話したいセンパイを選んでもらいます。9時でセンパイ全員が埋まらない場合には引き続き申込みを受け付けます。参加するセンパイのプロフィールなど、詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

同時開催イベント

交流ひろば

〔11月23日（土）前半 13:45～15:15／後半 15:30～17:00〕

会場：3階 303-304 商談室・305-306 商談室

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

2017年度に新たに事業を始めた支部活動委員会では、「人をつなぎ、社会を作る」という理念体系に掲げられた使命と「日本語教育の情報交流を促進する」という事業方針を実現するために、秋季大会でも「交流ひろば」を開催します。

「交流ひろば」では、出展者の教育実践や研究の紹介・共有、そして参加者との情報・意見交換が行われます。同じ興味や問題意識を持つ者同士がネットワークを拡げることが目的とした企画です。

「交流ひろば」への出展は、審査を経た発表ではありません。開発段階の教材や萌芽的な研究の紹介もあります。これらの紹介を聞いて「私ならこうする」と提案したり、「これ、今度の授業でやってみてもいい?」「うん、その結果教えて」と実践を共有しあったり、活発な交流が生まれることを期待しています。ぜひ、一度足を運んで意見・情報交換に参加してみてください。

* 出展の詳細は、18・19ページをご覧ください。

地域発信企画

* 無料でご参加いただけます。

「地域で生きる人々のライフコースに寄りそい支えるための取り組み」

〔11月24日（日）12:10～13:20〕

会場：3階 308・309・310 商談室

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

「地域発信企画」は、秋季大会の開催地で開かれ、現地の日本語教育や学習支援の関係者が中心となって情報を発信する企画で、2017年度から始まりました。今回の開催地・島根県は人口減少が進行していますが、2019年1月1日時点での外国人増加率は15.42%で、全国1位となりました。地域社会に根差し、長期に渡って生活する外国人住民は、今後さらに日本各地で増えていくことが予想されます。そこで今回は、「地域で生きる人々のライフコースに寄りそい支えるための取り組み」をテーマとしました。

島根県内で日本語教育に関わる方々が、多様な外国人住民を対象に行っている実践や活動を、ポスター、資料、実物などを通して紹介します。開催地からの発信に耳を傾け、参加者それぞれが新たな発見や刺激を得たり、相互に意見や情報を交換したりする場となり、新しいつながりが生まれることを期待しています。ぜひご参加ください。

* 出展の詳細は、20ページをご覧ください。

研究倫理セミナー

「研究とその指導に必須の注意事項」

〔11月24日（日）12:10～12:50〕

会場：5階 501 会議室

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

昨今の研究倫理に関する問題意識を共有し、日本語教育学の一層の進展に資するため、調査研究の際に留意すべき研究倫理や学生指導の際の留意点について会員の意識化を促すことを目的とした企画です。

まず、調査研究のためのデータ収集、学会発表、論文作成・投稿などにおける研究倫理について情報提供します。次に、学部・大学院生の指導者の立場にある教員が指導の際に留意すべき点、ハラスメントが起こる危険性などについて問題提起します。

これらの情報提供をもとに、研究倫理、および、学生指導の際の留意点について、参加者全体で意見交換を行いたいと思います。具体的な事例を紹介しながら議論したいと思いますので、論文や研究発表を考える学生さん、日本語現職教員の皆さんのほか、学部・大学院生の指導者の方々などの積極的なご参加をお待ちしています。

すっきり！「日本語教育推進法」のポイント解説！

〔11月24日（日）12:10～12:50〕

会場：1階 多目的ホール

主催：公益社団法人日本語教育学会 社会啓発委員会

2019年6月21日に「日本語教育の推進に関する法律」が成立しました。聞いたことはあるけど実はどういうものかよく分からない、知りたいけれど話を聞く機会がない、という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。このたび、社会啓発委員会では、「日本語教育推進法」を知りたいという皆様のために、ポイント解説のための説明会を行います。ご興味のある方は、ぜひ足をお運びください。

国際交流基金による外国人材受入のための事業説明

[11月24日(日) 12:10～12:50]

会場：3階 国際会議場

主催：独立行政法人国際交流基金

国際交流基金では、本年4月の入管改正法施行に伴い、主としてアジア諸国を対象に、海外における日本語教育基盤の充実に向けた新たな取り組みを開始しました。

このセッションでは、新たに開発した「国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic)」を中心に、各国で取り組んでいる日本語教育支援事業や新規派遣事業、教材開発など様々なプロジェクトについて、その目的、内容などを最新の状況をもとにご紹介します。

前半【13:45～15:15】

①日系ブラジル人児童生徒への多読教材作成及び活用の試み

山根 (吉長) 智恵 (山陽学園大学), ニ口とみゑ (一般社団法人HOPE プロジェクト)

私たちが勤務している岡山・広島と同じ中国地方の島根県・出雲市で、日系ブラジル人児童生徒が急増しました。児童生徒にとって一番の問題となる読解に着目し、ブラジルや在住地域の文化を意識した多読教材を作成しました。今後も作成していく予定です。この教材についてアドバイスをいただきたく、皆様のお越しをお待ちしています。

②ビジネス日本語教育における異種複数機関との連携

中川健司 (横浜国立大学), 鈴木綾乃 (横浜市立大学), 徳田淳子 (東京中央日本語学院), 浅海一郎 (内定ブリッジ株式会社)

学習者のニーズの多様化により、単独の機関では有効な学習支援が難しい場合があります。本出展では、ヨコハマ・カナガワ留学生就職促進プログラムにおける、日本語学校、NPO 法人、企業といった異種複数機関との連携を紹介し、それぞれの日本語教育の現場でどのような他機関との連携が可能なのかについて意見交換を行いたいと考えています。

③アラビア語母語話者向けのゼロ初級コースの開発と実践—YouTuber 日本語教師の可能性—

エネザン・バラ (首都大学東京大学院生)

シリア人留学生としての経験を生かし、アラビア語母語話者を対象としたゼロ初級 e ラーニングコースを開発し、実践を行いました。YouTuber 日本語教師の可能性を考えたいと思っています。興味のある方はぜひお越しください。

④オンラインコース「漢字 A1-1 自習コース」の紹介と教育現場での活用方法について

魏娜 (国際交流基金関西国際センター)

「漢字 A1-1 自習コース」は 2019 年 7 月 1 日に日本語学習プラットフォーム「JF にほんご e ラーニングみなど」に開講したコースです。コースでは、漢字の由来や特徴、「魚」、「肉」のような A1 レベルの漢字語彙 20 個をインタラクティブに学べます。当日は、コースの内容を紹介し、みなさんの教育機関に合わせてどのように活用できるか、一緒に考えることができればと思います。

⑤非戦への貢献可能性を秘めた授業実践—戦争をめぐる長期連続授業の展開—

萩原秀樹 (インターカルト日本語学校)

「戦争」の授業と聞くと、避けたいですか。挑戦してみたいですか。世界情勢の雲行きが怪しい今だからこそ、私たちが果たせる役割は小さくないはず。学習者は軍隊や原爆、戦中戦後の社会ほか日本の戦争にまつわる実際の姿を、実はほぼ知りません。未完成の実践の報告ですが、どうぞご覧いただき、意識を共有しませんか。

⑥持続的な地域日本語教室活動を行うために—えたじま日本語クラブの実践から—

胡子和子 (一般社団法人広島湾地域資源ネットワーク), 堀尾正子 (えたじま日本語クラブ)

私たちは地域で日本語教室の企画運営をしています。「えたじま日本語クラブ」の発展的かつ持続的な実践を目標に「外国人参加者」「日本人支援者」「活動内容」「連携」といったアプローチから取り組んでいます。同じような問題意識を持っている方との意見交換を楽しみにしています。興味のある方はぜひお越しください。

⑦国際結婚移住女性の日本社会参加への可能性と日本語教育専門家の役割

高橋志野 (愛媛大学), 新矢麻紀子 (大阪産業大学), 向井留実子 (東京大学)

日本語を自然習得した国際結婚移住女性は、日本語力が不十分なため、単純労働に従事している者も多いですが、職場では日本語や日本の習慣のわからない技能実習生等と会社側をつなぐ役割を果たす者もいます。本出展では、彼女らの正当な評価のために、日本語教育の専門家として何ができるのか、参加者の皆さまと意見交換をしたいと思っています。

⑧介護の専門日本語教育のデジタルコンテンツと実践報告

西郡仁朗 (首都大学東京), 石井清志 (国際医療福祉大学), 奥村匡子 (首都大学東京), 野村愛 (同), 高野駿 (同)

介護福祉士国家試験の合格を目指す外国人介護人材の支援として、「認知症」「難病」等の高齢者に多い疾患について、介護の専門家がわかりやすく定義、症状、対応等を解説したミニ講義を収録したデジタルコンテンツを整備しました。発表当日は、デジタルコンテンツを利用して行った実践報告をします。興味のある方は、是非、お越しください。

後半【15:30～17:00】

⑨遠隔同時双方向性授業におけるチャット活用法を考えるー日本語教員養成講座ライブ授業を例としてー
加藤恵梨 (大手前大学)

大手前大学通信教育課程日本語教員養成講座では、独自のライブ授業システムを開発し、双方向性のある同期型遠隔講義を行っています。当日は授業を体験していただき、受講生とコミュニケーションをとりながら授業を進めるために「テキストチャット機能」をどのように使ったら良いかについて考えます。ご興味のある方は是非お越しください。

⑩2つの日本語学習者版リーディングスパンテストの紹介

吉川達 (佐賀大学)

読解や言語習得など、人の認知処理を支える記憶システムにワーキングメモリがあります。私たちは、日本語学習者のワーキングメモリ測定のため、2つの日本語学習者版リーディングスパンテストを作成しました。このテストを使ってみたいという方、ワーキングメモリ研究に興味がある方、ぜひ情報・意見交換しましょう。

⑪アカデミックスピーキングー意見陳述・経験談 発話コーパスの紹介ー

伊東克洋 (東京外国語大学), 半沢千絵美 (横浜国立大学)

本コーパスは大学や大学院に在籍する日本語母語話者と、中上級日本語学習者(英語, 韓国語, 中国語)の発話データ(意見陳述, 経験談)を横断的に収集したものです。学習者の背景情報や日本語能力の情報も含まれています。ひろばでは試用版をご紹介します。みなさんにご意見をうかがいたいと思っています。興味のある方はぜひお越しください。

⑫短期日本語プログラムにおけるプレゼンテーションの指導ー限りのある時間を利用した指導方法とはー

藤田恵 (立教大学), 金庭久美子 (同)

私たちは約3週間の短期日本語プログラムを実施しています。レベルは、入門、初級、初中級の3レベル体制です。プログラムの最終課題には、パワーポイントを使った日本語のプレゼンテーションを課しています。レベルに応じた教材を開発し、指導を行っていますが、改善が必要であると感じています。実際の教材サンプルを見ながら、短期プログラムに合ったプレゼンテーションの教材と指導方法について、一緒に考えてみませんか。

⑬論文とは異なる文章の読解からレポート・論文の書き方指導につなぐための方策を探る

向井留実子 (東京大学), 近藤裕子 (山梨学院大学), 中村かおり (拓殖大学)

読解教材でよく扱われている、論文ではない読解文の学習から、レポート・論文の書き方につなげる指導はできないのだろうか、という疑問がきっかけになって行った調査を紹介します。日頃のレポート・論文指導で読解教材も活用されている方、私たちの調査結果を共有して、指導のあり方についての意見交換をしませんか。

⑭中上級日本語学習者向けのコロケーション検索システム「かりん」(スマホ版)の紹介

中溝朋子 (山口大学), 坂井美恵子 (大分大学), 金森由美 (同)

私たちは、主に中上級レベルの日本語学習者向けの書き言葉を中心としたコロケーション検索システム(スマホ対応)を開発・改善を行っています。ぜひ閲覧・体験していただき、ご意見・ご感想をいただけたらと思います。

⑮「書くこと」を中心としたゼロ初級の授業実践ー多忙な理系院生への試みー

田代桜子 (愛媛大学)

日本語ゼロ初級の理系院生を対象に「書くこと」を中心とした授業を行っています。時間のない学習者が効率的に日本語学習に取り組む方法の一環として、学習者が必要な語彙や表現を取り入れた作文活動などを行っています。今回は試行中の教材なども見ていただきながら、意見交換ができたかと考えております。

⑯ Scratch を用いた留学生に対するプログラミング授業

高橋敦 (デジタルハリウッド大学)

Scratch を用いた留学生に対するプログラミング授業の紹介です。40ヶ国語に対応しているので初級の学生でも多国籍のクラスでも、みんなでゲームを作りながら楽しくプログラミングが学べます。日本語授業の一環として、これからプログラミングを学ぶ留学生への予備教育として、興味のある方ぜひお越しください。

地域で生きる人々のライフコースに寄りそい支えるための取り組み

第1部 [12:10 ~ 12:45 (35分)]

ブース1	ブース2	ブース3
3階 308 商談室	3階 309 商談室	3階 310 商談室
<p>①SIC訪問日本語コースの紹介 【しまね国際センターの取り組み】</p>	<p>③「出雲市日本語初期集中指導教室」の紹介 【出雲市教育委員会】</p>	<p>⑤介護系進学を目指す学生への日本語教育 【トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校の取り組み】</p>

第2部 [12:45 ~ 13:20 (35分)]

ブース1	ブース2	ブース3
3階 308 商談室	3階 309 商談室	3階 310 商談室
<p>②島根県版オリジナル日本語教材「いっしょに にほんごしまねけん」の紹介 【しまね国際センターの取り組み】</p>	<p>④外国にルーツを持つ10代青少年の支援ボランティア 【MANABIYAの取り組み】</p>	<p>⑥ブラジル人従業員に対する日本語教育 【フジアルテ株式会社の取り組み】</p>

※参加費：無料，事前申込不要。直接会場へお越しください。
本プログラムは，大会参加者以外でもどなたでもご参加いただけます。

● 会場周辺地図



● 全国から会場まで

島根県立産業交流会館(くにびきメッセ)のウェブサイトでのご案内をご参照ください。
<http://www.kunibikimesse.jp/19.html>

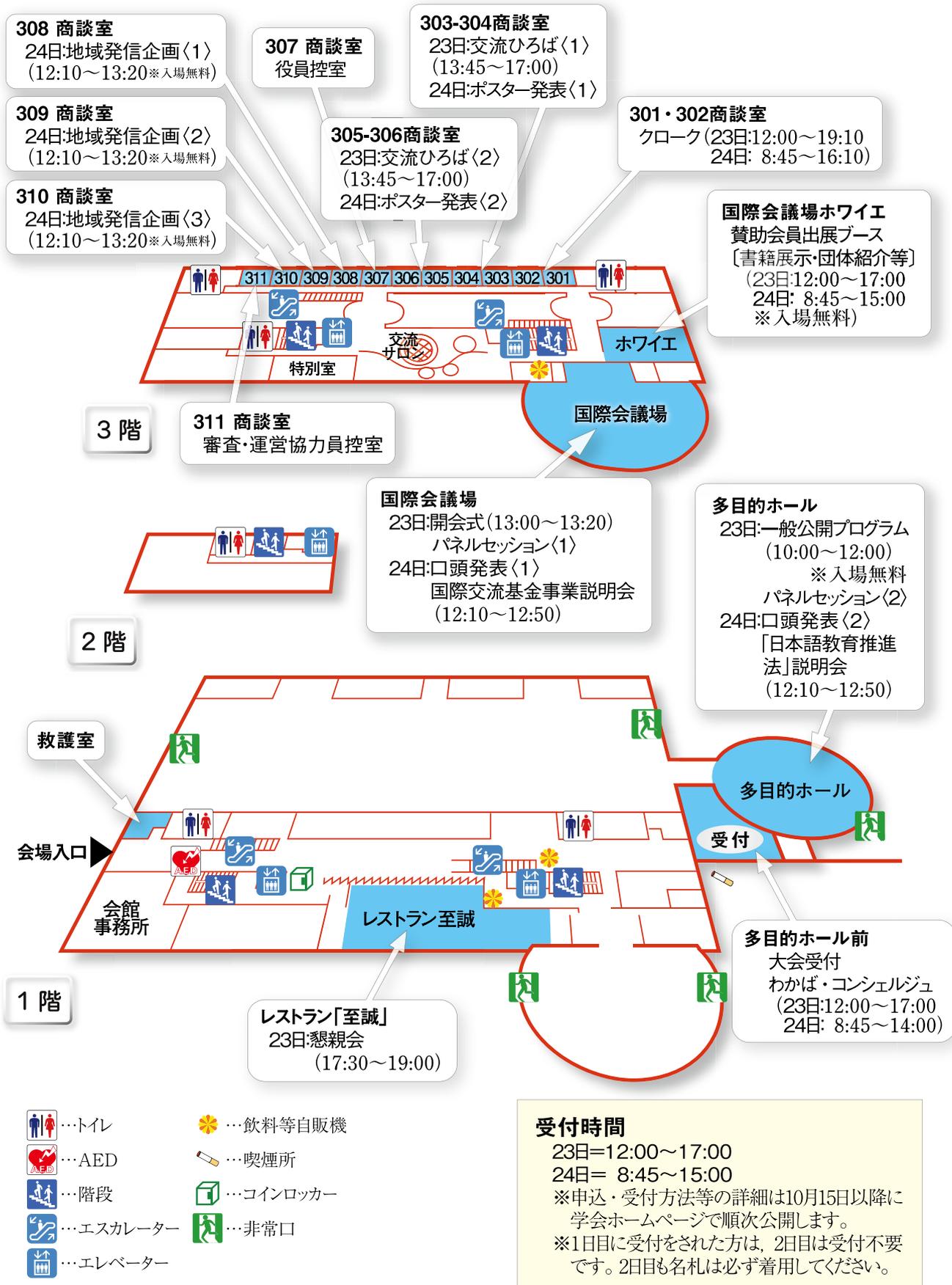


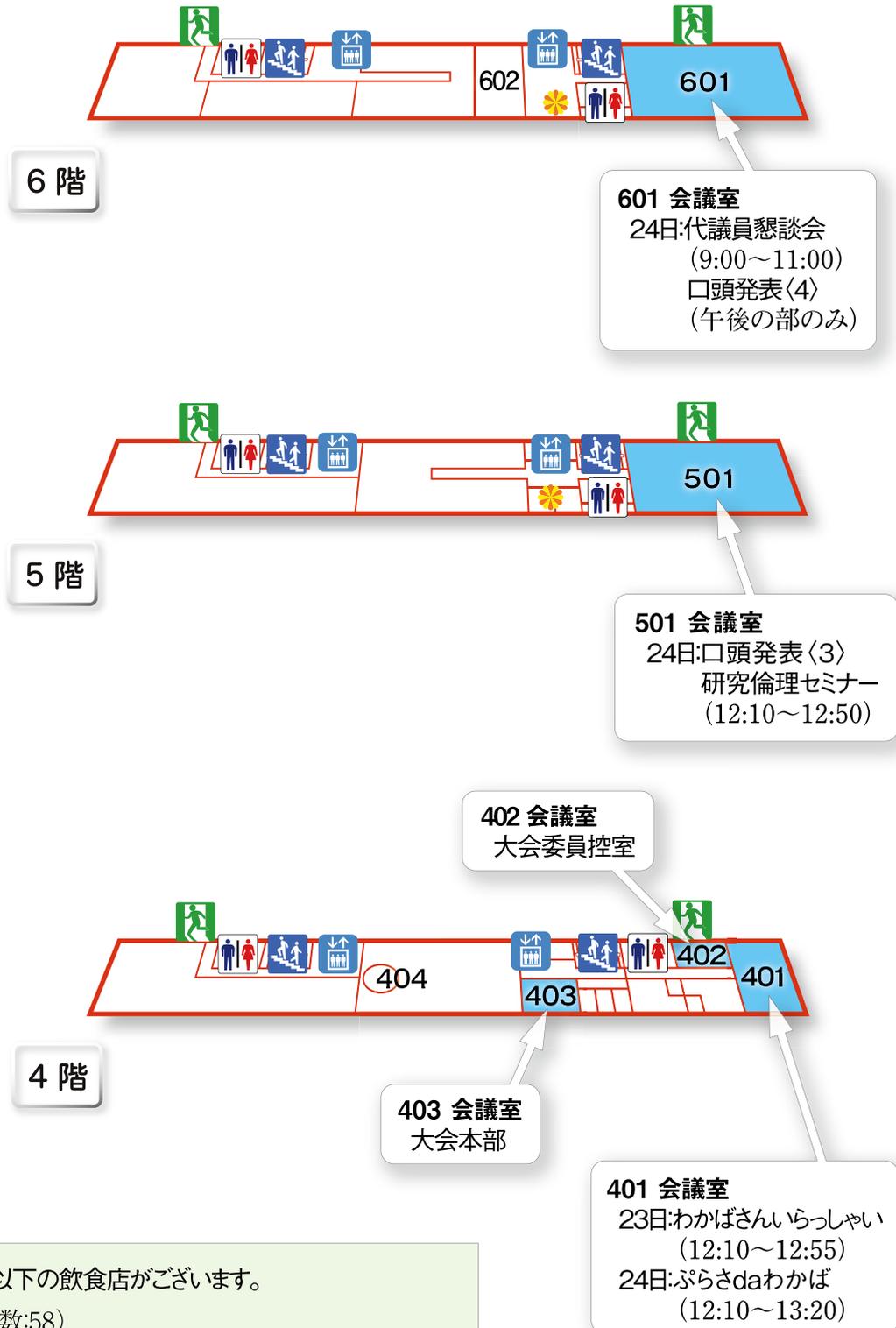
- ・最寄駅は、JR「松江駅」です(徒歩約10分)。
- ・最寄空港は、「出雲縁結び空港」または「米子鬼太郎空港」です(ご利用の航空会社によって異なります)。

◎所要時間は、おおよその目安として記載してあります。

● タクシー会社

日交タクシー 松江営業所 TEL0852-21-5127
 松江一畑タクシー TEL0852-32-1828
 第一交通 TEL0852-25-2323





◎施設内には、以下の飲食店がございます。

至誠(1F 席数:58)
営業時間 23日 11:00~14:30 (ラストオーダー 14:00)
24日 11:00~14:30 (ラストオーダー 14:00)

◎お弁当等をご持参の方は、以下の会場・時間帯の飲食が可能です。
ご利用の際は、ゴミの持ち帰りおよび施設の美化にご協力願います。

23日 12:00~13:00 国際会議場, 多目的ホール
24日 12:00~13:30 国際会議場, 多目的ホール, 501会議室, 601会議室